



中村俊定文庫
文庫 18
954



2000



遊悼序



りの此なるは終に可哀なることあり
 ことなきを世にさすや哀又可憐なる事あり
 こと一は佛僧も終に可哀なる事あり
 世間をたのむは終に可哀なる事あり
 人の心は隠密なることあり秋のたのむことあり
 人の心を相するは可哀なる事あり
 人の心を相するは可哀なる事あり

中もやうなる海も怪しきこと
さうに病一期にせまのく醫術初
の程もやうに年月と面うに世の夏
見果早ぬまれと好むる及此技
あゝ

知念の墓紙より入や夜の日

とちうにや死常此何しと見え
う形く程死後もいふや神

墓より一遺友の悼いぬる体
一族あつたといふ向物もその墓
りてを後布くいふのれ小冊子
やして亡又う魂を祀りあるの

洞水亭
如彦

御去略

志の島か高きうなくと喜阿ト 秋 高江

白甚れ明りた緋く性れ多く 日 吾文

折うや甚れ浮きも法のみ 日 嘉章

りちふ歌の惜さよ郭么 月 嘯

牡丹く蓮よ折めんとも 飛 石明

くまうりと恨て洞出却りり 女 花嫁

う飛きうま乾ぬ神そへ梅の元 石 水

まきーのそらな白ん若法も 砂 風

みーの夜を折めん月の山場か 琴 意

夏の世此まのちや折阿やめ 布 川

みーの夜ハ夏此時よ明き多く 汶 東

ろよちんね暖く命一郭么 危 登

ちーの夜も法の折りや合歌のむ 可 景

御麻の中衣なり折んとも 南 窓

またのむ夜もく折るう郭么 龍 枝

定むる世にあらむらんかゝる御上
かゝる御心を何とぞと見れば今後

然るの聖なる御心や友の心を
子民の外に後をさすりければ
懐香よりかゝる御心をあつさる
はこれ神のまゝにや早月反
うたへやうかゝる御心を
如産 母 女 の か 年 お 親

業科もろふは日向し掃りし
如産

阿おき命一國も破てちり
掃

申すのハ初とありしは信あり
如産

追悼

阿徳のめしとて
子想

明やとておとる人の口を吐く
吐

の徳有れば阿の一為く徳電一
菊はちきもいりて世帯根分
植らぬをい

三級市

友菊より所並寄りちら生より 魚波

と川をみりて此後よりなる

菊白老人を悼く

重中房

け人下り華落ぬと恨ぬる 葵吉



